

令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー

1. 事業の成果

海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業として、インドネシア・関東・伊豆諸島ではウミガメ類を対象に、小笠原ではウミガメ類およびザトウクジラを対象にした事業を継続した。伊豆諸島での調査は三年目の最終年度を迎え、アオウミガメの健康状態と遺伝的特長を明らかにすることができた。島民向けの報告会は今年度4島で7回実施し、今後の関係構築にも努めた。インドネシアにおいてはタイマイ保全活動地4島とオサガメ保全活動地1海岸での調査や保全活動を継続した。新しい取り組みとしてミズオオトカゲの卵食害が多くなっているセガマ・ブサル島においてミズオオトカゲのモニタリング調査の実施と、ふ化状況の実態調査および海岸清掃をおこなった。また、活動期間を短縮していたプナンブン島において2024年から通年の卵保護を再開し、海洋水産省への支援要請をおこなった。小笠原では、ザトウクジラの個体識別調査においてLINEアプリを用いての情報収集を島内で試験的に実施した。市民科学者からの情報提供数が増加することで低コストで多くの目撃情報データを得ることができ、また市民科学者にとっては迅速に個人情報を受け取れる利点を確認された。ウミガメおよびザトウクジラの共同研究も積極的に取り組み、海洋生物の生態解明や保全に関する研究にも寄与した。

海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材育成事業も継続した。海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを実施した他、海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供した（小笠原：島内24名、島外73名。横浜：13名）。

海洋生物及び自然環境に関する普及啓発の事業として、「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」の運営管理や当施設を利用した教育啓発・エコツアー事業を継続した。関東においてはプロボノ支援を受けて企業研修プログラムの開発と実施に取り組んだ。小笠原への観光船や企業等から依頼を受けての講演実施や伊豆諸島においても各種講演をおこなった。また、ウミガメジョイントブリーディング（小学校や水族館での子ガメ短期育成および子ガメ飼育体験プログラム）は新しい企業も加わり計6組織で継続した。国内外において、オリジナルグッズの物品販売事業を継続し、新商品開発や販路構築に務めた。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

1 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する事業【支出額:28,936千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 タイマイ保全を目的としたジャワ海での保全活動は、4島（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島）で継続した。今年は、タイマイ5,443巣（前年比+621）とアオウミガメ775巣（前年比-115）分の卵を盗掘から保護し、推定約163,000匹のタイマイと20,000匹のアオウミガメを海に帰すことができた（2024年1月-12月）。セガマ・ブサル島にてふ化状況の実態調査とウミガメ卵の捕食者であるミズオオトカゲのモニタリング調査を実施し、流木や倒木の除去による海岸清掃もおこなった。プナンブン島においては通年の保護を実施し、2月に保全実態調査をした。また、西カリマンタン州海洋水産省を訪問し、プナンブン島での活動紹介および支援要請をおこなった。

西パプア州では、ジェン・シュアアップ海岸でのウミガメ産卵数のモニタリング調査を継続した。今年度のジェン・シュアアップ海岸では1,456巣（2024年1-12月）で、昨年とほぼ同数であった。未解明であったインドネシアのタイマイ繁殖個体の遺伝子解析に関する論文は2024年4月にFrontiers in Marine Science誌にて受理された。

- ・ 大成建設自然・歴史環境基金助成事業（一部・令和5年度分含む）
- ・ 地球環境日本基金助成事業（一部）
- ・ Billion Baby Turtle 助成事業（一部）

- ・ パブリックリソース財団助成（一部）
- 【日時】 令和6年4月1日から令和7年3月31日
- 【場所】 ジャワ海周辺（セガマ・ブサール島、プスムット島、キマル島、プナンブン島）、西パプア州（ジェン・シュアアップ地区）
- 【従事者人員】 4人
- 【対象】 ジャワ海周辺地域の住民（50～80名）、海洋漁業省、西パプア州地区住民（1,000人）

2. 小笠原諸島におけるウミガメ調査及び保全事業

【内容】 小笠原諸島においてアオウミガメの産卵巣モニタリング調査及び標識放流調査、ふ化後調査、人工ふ化放流、短期育成を実施した。父島市街地に隣接する大村海岸では産卵時期に合わせてパトロールを行い、帰海できなくなった産卵メスガメや入海できないふ化稚ガメの保護も行った。食用捕獲されたメスガメの体内から採取された体内卵のふ化事業を実施した。また、食用捕獲されたウミガメが誤食していた人工物サンプルの採取もおこなった。アオウミガメ鱗板に関する依頼を受け、調査を実施した。外部研究者と共同研究を積極的に行い、研究者6名、修論生3名、卒論生2名の受け入れ、成熟個体の年齢査定やウミガメ捕食生物の生態解明など小笠原の事業内容が大きく向上した。

- ・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）
- ・ TOTO水環境助成事業（一部）
- ・ 東京鼈甲組合連合会委託事業（一部）
- ・ 科学研究費補助金（一部）

【日時】 令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】 小笠原諸島

【従事者人数】 8人

【対象】 島民（約2,700人）、一般（不特定多数）

3. 伊豆諸島および関東沿岸におけるウミガメ漂着調査事業

【内容】 関東沿岸（茨城県、千葉県、神奈川県）のウミガメ漂着（ストランディング）調査および定置網におけるウミガメ混獲調査を実施した（全情報136頭中67頭調査）。漂着・混獲情報は、既に構築されたネットワーク（行政や関係機関、漁業者、団体や個人など）からだけでなく広く一般からも収集し、関東のほか伊豆諸島・鳥取県・新潟県・宮城県・北海道・福岡県からも寄せられた。昨年度から日本全国における漂着オサガメ調査を実施し、情報収集や関係構築にも努めた。オサガメまた関東に漂着・混獲するアカウミガメ（一部アオウミガメ）の年齢査定および遺伝的系群解析事業の共同研究を開始した。伊豆諸島におけるウミガメ調査や関係構築も継続した。

- ・ 地球環境基金助成（一部）
- ・ 水産関係民間団体事業補助事業（一部）
- ・ 自然公園等保護基金（一部）
- ・ 科学研究費補助金（一部）

【日時】 令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】 茨城県、千葉県、東京都、神奈川県など

【従事者人員】 4人

【対象】 各地団体及び個人（サーファー、カヤッカー等）、行政関係者、漁業関係者、水族館関係者、大学・研究者など約200人

4. 小笠原諸島におけるザトウクジラ調査事業

【内容】 尾びれによるザトウクジラの個体識別調査を他団体と協働で実施した。エコツーリズムの一環として野生生物の研究や保全に関与することで、保全への理解を深めることを目的とし、市民科学の導入も実施し、尾びれ写真を一般から広く募集した。今年度も個体識別照合作業にAIを導入することで作業の効率化を図るとともに、市民科学者からの情報提供と個体情報の迅速な提供を実現できた。また、過去のデータを用いて小笠原に来遊するザトウクジラの個体数や生存率を解明するため、引き続き解析に取り組んだ。また、沖縄、奄美、北海道、伊豆諸島などザトウクジラが来遊する国内地域の大学・研究機関と回遊経路や交流の実態など生態解明に取り組み、その一部を公表した。国外の研究機関へのデータ提供や共同研究を実施した。

【日時】 令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】 東京都小笠原村父島

【従事者人員】 5人

【対象】島民（約 2,700 人）

2 海洋生物及び自然環境の調査研究、保全、資源管理に関する人材の育成事業【支出額:11,561 千円】

1. インドネシアにおけるウミガメ調査及び保全に関する人材育成事業

【内容】インドネシア現地カウンターパート YPLI のスタッフや、YPLI スタッフを通して各保護事業実施地域の監視員に対して調査技術の指導を行った。助成事業の申請・報告や共同研究者対応などの指導も行った。

【日時】令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

【場所】ジャワ海全域（セガマ・ブサル島、プスムット島、キマル島、プナンブン島、中部ジャワ州、ジャカルタ首都特別州）、西パプア州（ジェン・シュアップ地区）

【従事者人員】3 人

【対象】ジャワ海西部の地域住民（30～50 名）、西パプア州のオサガメ監視員及び地域住民（20 人）

2. ボランティア、インターン及び研修生の受け入れ及び指導事業

【内容】海洋生物の調査や保全に関して興味がある人々を一般から広く受け入れ、知見を広める場を提供するほか、海洋生物をテーマに研究を行う学生に対してサポートを行った。

小笠原父島内では延べ 24 名（令和 5 年度 15 名）の父島在住ボランティアが活動に参加。島外からは延べ 73 名（令和 5 年度 64 名）の受け入れを行った。内、59 名が大学生（令和 5 年度 39 名）、14 名が社会人（令和 5 年度 25 名）であった。ボランティアの平均滞在日数は 21 日（令和 5 年度 28 日）。最大 73 日。最小 9 日。令和 5 年度と比較すると、一人一人の滞在日数は減少したが、より多くの島外及び島内ボランティアの受け入れを行った。

横浜事業所ではウミガメ漂着調査補助の受入れをおこなった他、プロボノ支援の元で普及啓発事業開発をおこなった。13 名の方に、述べ 49 日 122.5 時間参加いただいた。

・ TOTOT 水環境基金（一部）

【日時】令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村父島、神奈川県横浜市

【従事者人員】8 人

【対象】一般

3 海洋生物及び自然環境に関する情報提供、普及啓発の事業【支出額:10,719 千円】

1. 小笠原村屏風谷施設の運営管理事業

【内容】小笠原村より運営管理を委託された「小笠原村屏風谷施設（通称：小笠原海洋センター）」を利用し、海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を島民や来島者に対して行った。

・ 小笠原村アオウミガメ保護増殖補助事業（一部）

・ 小笠原海洋センター運營業務受託事業（一部）

【日時】令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】9 人

【対象】島民及び来島者

2. 教育啓発・エコツアーリズム事業

【内容】小笠原小学校の 5 年生に対して総合学習を通しウミガメに関する教育・啓発を行うほか、島民や来島者に対して海洋生物に関する情報提供及び普及啓発を行った。海洋生物保全と地域経済活性化を両立させることを目的にエコツアーリズム基盤を構築した。

【日時】令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

【場所】東京都小笠原村父島

【従事者人員】6 人

【対象】一般

3. ウミガメジョイントブリーディング（子ガメ短期育成および飼育体験学習）

【内容】前年より参加継続のさとえ学園小学校、学校法人シモゾノ学園（国際動物専門学校）、高齢者介護施設であるオーチャード沼津およびオーチャード開智（ランブラス・キャピタル株式会社）、すみだ水族館に加え、株式会社 BISOU、株式会社レジデンシャル不動産の計 6 組織にて子ガメ短期育成と飼育体験を通じた教育・啓発活動を実施した。一部の参加組織に対して、子

ガメ短期育成に関連したウミガメ講演を対面で行った。

【日時】令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】埼玉県、東京都、静岡県、長野県

【従事者人員】8人

【対象】小学生1,000人、専門学校生500人、一般

4. WEBサイトによる情報発信事業

【内容】エバーラスティング・ネイチャーの活動理念や目的、インドネシアや国内での活動成果を一般に広く公開するために、ホームページにおいて情報の発信を行った。Facebook や X(旧Twitter)、Instagram、メールマガジンと連携して広報を行った。小笠原海洋センターのホームページに、夜間放流会の開催通知及びウミガメレスキューの情報を掲載し、島民の方がアクセスしやすいようにした。

【日時】令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】8人

【対象】一般

5. イベント開催・講演会・学会などに関連する事業

【内容】ウミガメに関するイベント開催や環境関連の各種イベント出展のほか、講演会を主催し、活動の紹介や海洋生物および海洋ゴミについての普及啓発を行った。開催方式は対面での実施が主流であり、他の団体や研究者と協働で行った講演会もあった。また、各種の講演会や学会に出席、および発表を行った。社会人プロボノの支援の元、企業研修プログラムの開発も行った。

【日時】令和6年6月（すみだ水族館講演）、7月（館山家庭教育学級講演、さとえ学園講演、キャノン㈱講演、につぼん丸・飛鳥II講演）、8月（親子で自由研究イベント、TOTO㈱講演）、11月（小笠原 Day、すみだ水族館コラボ講演、カフェスロー講演、カメ deshow）、12月（日本ウミガメ会議参加）、令和7年1月（アクションミーティング、海洋ゴミイベント、神津島講演）、2月（海洋ゴミイベント）。
・ TOTOTO 水環境基金助成事業（一部）

【場所】神奈川県、東京都、オンライン

【従事者人員】9人

【対象】一般

(2) その他の事業

1 物品販売【支出額： 5,366 千円】

【内容】「小笠原村屏風谷施設（小笠原海洋センター）」の展示館や「ELNA サポートショップ（エバーラスティング・ネイチャーのWEBサイトでのネット販売）」、各種イベントにおいて物品の販売を行った。広報の一助を担う ELNA カレンダーを今年も販売し好評を得た。今年もスタッフの発案をきっかけに多彩なグッズ開発・販売をすることができた。販売サイト Suzuri への登録やボランティア経験者向けの受注生産もおこない、新たな商品開発および販路構築にも努めた。

【日時】令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）、神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）

【従事者人員】9人

【対象】会員及び一般消費者

2. 陸域における野生生物及び自然環境の調査研究に関する事業

【内容】小笠原諸島父島において、その数の増加が懸念されており、ウミガメの卵やふ化幼体を捕食する等、ウミガメにも脅威となっている野ネズミを捕獲しその数を調査することで、小笠原海洋センター内の野ネズミの個体数の現状把握に努めた。同時に、殺鼠剤がアオウミガメにおいて感受性が高いことが示唆されているため、殺鼠剤以外の方法で野ネズミを駆逐する方法を模索した。主にネズミかごを使用し、センター内でのネズミ被害は防止できた。

【日時】令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】東京都小笠原村（小笠原海洋センター）

【従事者人員】5人

【対象】一般

3. 野生生物及び自然環境の利活用による社会問題解決に資する事業

【内容】 ウミガメ飼育が及ぼすアニマルセラピー効果を実証するため、高齢者介護施設において外部研修者と協働で試験および検証を行った。

【日時】 令和6年4月1日から令和7年3月31日

【場所】 神奈川県横浜市（当団体横浜事務所）、静岡県

【従事者人員】 2人

【対象】 一般